

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102236		
法人名	一般社団法人 未来会		
事業所名	グループホーム はぎの里		
所在地	熊本市北区植木町鞍掛1782		
自己評価作成日	令和6年10月24日	評価結果市町村受理日	令和7年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『自分の両親に利用させたい』と思える施設(サービス)づくりを施設理念に掲げ、その思いを胸に職員一同ケアに取り組んでいます。  
また、食へのこだわりを持ち、自畑でとれた野菜、市場直送の魚 肉専門店からの直売、お米は「七城米」を使用して、「元気の源」となる食には力を入れています。  
地域行事の参加や相談等地域とのつながりに力を入れて取り組んでいます。  
職場環境においても、研修の充実、労働時間、働き甲斐のある職場づくりに務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年、地域行事等への参加や地域住民との交流、社会参加が入居者の心身の活性化になり、平均年齢も高い中でも生き生きとした日常である。職員は入居者を一人の人と、認知症としてばかりでは無く多角的に見て全てを受け止め、言動・行動をあるがままに受容している。老人会や敬老会への参加等入居者が生きている証として自信となり、酷暑であった時期には朝夕のグラウンドゴルフ練習が大会参加と目標を持つ等挑戦させたいとする職員の志向の高さが表われている。家で出来た事、食べたいものの提供ができる場とし、ホームを大家族として捉え歌や入居者同士の会話が弾む日常等入居者をまん中に置いたケアは、理念の実践やプランニングの確かさである。地域の中に確固たる基盤が築かれたホームは、入居者と職員が労わりあいながら、笑って過ごす環境が息づき、職員には働きやすい環境が整備されたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念を玄関に掲示している。 勉強会で定期的に確認して、その人らしい暮らしができるように取り組んでいる。	年の節目として4月に理念を想起させながら話し合っている。入居者を中心として入居者への関わり、寄り添いを追求することとして、家で出来た事、食べたいものが提供できる事等ホームを一つの大家族として捉えている。グループホームの理念として、入居者と一緒に暮らしを楽しむことや退屈しない一日、関わり方との絆を大事にすることとして掲げ、その実践に全員がベクトルを同じくして臨むホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会等の行事に職員が参加して、歌や体操、会話を地域の方々と一緒に楽しみ、顔なじみの関係性を作り上げてている	地域の中での確固たる基盤が築かれ、地域の様々な行事や自治会活動に参加している。地域の神社参拝や、田原坂文化祭には作品を出品し、子ども神輿の来訪や、敬老会のバス旅行では地域の中で外にできない高齢者支援として職員の参加も参加し地域高齢者との関わりを深めている。ホームの敬老会には三味線や民謡を披露される地域住民、更には町の文化センターのレクダンス発表会に入居者と出かける等地域の中で充実した生活を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会のバス旅行に参加して、地域の閉じこもりのご夫婦の支援や車いす介助等を行う事で交流が深まった。又地域の方々の日々の困りごとを聞く機会も持つことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議を継続している地域とのかかわりの報告や催しや行事の報告を写真等を添付して行っている	運営推進会議の意義を的確に踏まえ、定期的に開催している。開設して7年、これまでの地域との関係がこの会議に表われ、行事等を通じて今後のサービスにつながるような評価や提案もある等充実した会議である。また、地域包括支援センター・自治会長・民生委員や地域有識者、消防署(植木分署)からの参加もある等メンバー構成の問題も無く、活発に意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括の参加があり、包括支援センターを通じて情報交換等を行っている	地域包括センターから運営推進会議に参加があり、ホームの現状等はこの会議の中で発信している。ケアサービスの内容等不明な点は直接行政に出向き相談に応じて貰い、介護保険申請代行や日程調整等を行っている。校区の行事(ウォークラリー)には区役所職員の参加もあるが行政との関わりは必要最低限であるとしているが、地域包括支援センターからの入居相談等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会において、身体拘束の禁止対象となる具体的な行為 行動 言動について職員の身体拘束に対する理解を深め支援につなげている	身体拘束適正化委員会を開催し、事例の検討や勉強会の中で自分を振り返る機会とし、年2回はアンケートにより意識強化を図っており、拘束及び虐待の弊害を正しく認識している。入居者の“帰りたい”の言葉には寄り添う等人間関係の構築及び普段の関わりが重要であるとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関係の研修会に参加し、その内容を勉強会で周知徹底を図っている。その中に虐待の芽を積むアンケートを実施し、常に虐待につながる行為がないか職員同士も意識してケアを行うように務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設において後見人制度の利用者はいないが、外部研修に管理者が参加し、伝達研修を勉強会を通して行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を持ち、質問があればしっかりと説明を行い、理解・納得して頂いた上で契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が些細な事柄でも、職員に言いやすい雰囲気作りに努めている 又面会時には近況を直接お話して家族の思いを汲み取るように心がけている	利用料金を現金払いとして家族の訪問時に要望等を聞き取りするとしているが、協力的な家族が多くホームの困り事等を家族と一緒に検討する等良好な関係が築かれている。 請求書とともにメッセージを入れ発信しており、感染状況を見ながら一時帰省を奨励し、家族と一緒に食事会も行う予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等の場で意見や提案を聞き取り、取り組めるものから上司と相談して、業務運営に反映させるように務めている	月2回の勉強会(必要な研修や身体拘束、虐待防止、権利擁護等)等ユーチューブを活用しながらブラシアップを図り、その中で職員の意見や提案を聞き取りし、代表に上申する体制としている。勤務シフト作成前に職員方聞き取りし、職員が働きやすい環境に努めている。職員は曖昧なケアを行わないこととして質問や疑問等は看護職員に相談するとしており、職員同士の関係も構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修等の受講料を負担し、資格取得へのサポートで、やりがいや向上心をもって働ける職場環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加することで、知識や技能の向上、又他事業所の職員との情報交換等で視野を広げる機会を作っている 得た情報は勉強会で他の職員に伝達を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム連絡協議会に参加することで他の施設担当者との交流を図り、ネットワーク作りに取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時に本人家族との面談をしっかりと行い、不安や困りごとと要望を聞き取り、きちんと記録に残し対応につなげている 又入居後も日々の生活の中で情報を得ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様に必要な対応を、家族と利用者様の会話の中から聞きとったり、面会時に家族様に近況を伝え、その中から家族の思いを汲み取っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人の残存能力をアセスメント行ないながら把握し、職員間の情報共有で、今必要なサービスの対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が一つの家族として、一緒に家事や活動を行いながら生活を送っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り月に1回以上は家族との時間が持てるような環境を作り(利用料金の現金払い、受診同行)、お互いの顔の見える家族間でしか得ることのできない関係性を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方の来苑時は窓越しではあるが、ゆつくりと面会の時間をとって支援を行っている 散髪は長年当事業所とお付き合いさせていただいている女性の床屋さんに来ていただき、利用者様にしっかりと寄り添っていただいている	介護施設との概念が無く、地元からの入居者が多く、このホームそのものが馴染みの場所である。自宅へ帰って来たり、仏壇参りや盆・正月の帰省に家族の協力を得ている。隣保班の床屋からの訪問は会話も弾み、ホームにおいて季節毎の慣習等も継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流時は職員が必要に応じて介入して、交流がスムーズにいき楽しみの持てる空間を作り上げるような環境づくりを意識した支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の支援も必要に応じて本人家族と連絡を取り合い相談の受け入れを行っている 又当事業所で看取りを行った家族は、現在でも継続して運営推進会議のメンバーとして参加していただいている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在1対1で朝夕の散歩を行っている その際職員との会話の中に色々な思いや不安が見えているため、本人の思いに添える支援につなげるようにその情報を、朝礼や終礼で共有している	職員は日々の関わりの中、特に朝夕の散歩の中で思い等を引き出す等一人の人として関わるとともに、分け隔て無く一人ひとりに声を掛けている。入居者同士の会話の中から思いを把握したり、入居者目線で声を掛け、年齢とともに意思疎通が難しい場合にはこれまでの関わりの中での把握や、会話の中で選択肢を投げかけながら本人本位になるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション時間の中で、今までの暮らしがわかる様な問いかけを一人一人行いながら把握につなげている 又家族来苑時に今迄の暮らしを聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を把握しながら、出来ること、出来ないこと、出来そうなことをきちんと見極めながら、できることの幅を広げられる支援方法を見つげられるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月家族の訪問時に合わせて、近況報告を行うように努め、本人家族の思いを聞き取り、勉強会で職員間の情報共有を図り、身体的なことは直ぐにかかりつけ医に報告相談を行いながら計画の見直し等を行っている	入居者の能力を引き出すことをライフサポートプランに込めている。心身の低下により家族等を含めて方向性を検討したり、更新時の見直しでは本人の望む暮らしを実現するため活動参加や心身機能維持等を目標とする等明確に示している。日常生活から見えてきた懸案は家族に相談し、心身状態によるモニタリングやカンファレンス等、その都度プランを作り直しており、現状に即した具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の気づきは終礼で報告行い、記録には場面がわかる様に記載し、速やかな対応でケアにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者 家族の状況変化をとらえて、現在何が必要なのかを見極めながら、個々のサービスにつなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力のもと季節の果物の収穫を楽しんだり、植木町文化祭の招待を受けての参加又地域の文化祭に作品出品など多くの支援を受けて、利用者様が無理なく有する能力をいかせる活動に参加できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医の継続又協力医の説明を行い、本人家族の意向に沿って決めて戴いている。訪問診療による受診も行っている。専門医に関しては看護師同行にて、必要に応じて家族の同席もお願いしている	本人・家族の同意のもと全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、訪問診療や情報提供書を作成し家族による受診外出が行われている。訪問診療の結果は電話や家族の訪問時に伝えている。緊急時はホームで対応する他、24時間体制の訪問看護を受けており、職員の安心にも繋がっている。食後の歯磨きなど職員の見守りや必要に応じ介助しており、今後は協力歯科医と連携しながら口腔ケアにも力を入れたいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間体制を整え緊急時の対応や相談等の連携を行っている 又週1回訪問にて利用者様の状態把握や情報の伝達等を密に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室を通して、医療機関や家族との情報交換を行い、退院後スムーズに支援が行えるように経過確認やカンファレンスに積極的に参加している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明は行っていないが、利用者様の心身の状態変化に伴い、家族へのかかりつけ医からの説明を行いながら、家族との話し合いを重ね、事業所としてできることを十分に説明し、納得戴いたうえで看取りを行っている	主治医より看取り期の判断を示された後、家族の意向を確認している。家族との話し合いは繰り返し行われ、主治医と家族との面談の場も設けている。職員は看取りに関するホームの方針を理解し、日頃の支援に当たっている。家族からは医療機関にはないケアに努めるホームの姿勢を目の当たりにしており、支援後も家族からの感謝の言葉が多く寄せられ、職員の励みになっている。コロナ禍での看取り支援の際も、孫やひ孫など家族の面会を受けながら安らかな最終の支援が行われている。	看取りに関する研修会の実施や支援後は一人ひとりの思いや反省点を振り返る機会をもっている。職員も疑問があれば看護職員に相談し、指導やアドバイスを受け基本のケアを身に付けており、良い看取り支援が出来ていると管理者は語っている。今後も日頃の関わりを大切にホームに出来る最良の支援を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対応の指導を受け、実践できるように努めている 訪問看護師よりの指導も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会のメンバーの協力をいただき夜間想定での防火訓練を実施 その際消火訓練も行い、消火器使用法の実践も行った	運営推進会議のメンバーの協力を得た夜間想定訓練が今年は1回実現している。消火訓練も行われ、消火器の使用方法を身につける事が出来ている。訓練後の運営推進会議では気づきなどの意見交換がなされ、火事を伝える声が聞こえなかった点や地域との連携など今後活かせる意見が出されている。地域消防団の訓練への参加は勤務の都合などから難しいようであるが、夜警による協力体制や交流は努めて行っている。	今後も火災や自然災害などあらゆる有事を想定しながら、日々の安全チェックや訓練等に努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのかかわり方には常日ごろから、一人一人の人格を尊重したケアを行い、不適切な声掛けや態度が見られた場合はその場で注意できるような関係づくりを目指している	職員は大先輩として尊厳の念を持って関わるとともに、出退勤時に入居者に声を掛け、寄り添うの心を大切に一日をスタートしている。離れた職員と大声でやり取りしないなど、管理者は普段から気づいたこと、注意事項などその都度周知に努めている。個人情報の使用については家族の同意を得、職員の守秘義務についても入職時や研修等で意識を共有し、ホームを離れても守秘義務を守る事としている。	居室へ入る際ノックや了解を得ず行うことがあり課題としている。今後も目標に掲げ日々振り返りながら改善されることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の日によっての心身状態の変化を声掛けや動きの観察を行いながら、本人の思いを見出し、本人が理解できる言葉で自己決定ができるように声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いをしっかりととらえて、入浴等本人のその日の体調や気持ちに合わせて、それぞれの過ごし方を支援していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの支援は毎日朝から行なう事、きちんと対応したことで本人も又面会に来た家族も気持ちよく過ごすことができることを朝礼時に伝え実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の計画のもと、季節や行事を感じることでできる食事の工夫を行って、利用者の方々の楽しみの持てる食事の提供を行っている 又片付けも利用者様の能力に合わせ一緒にやっている	入居者の好みや旬を生かした手作り料理(おやつも含め)は好評であり、入居者の楽しみや家族の安心につながっている。2名の専任者が交代で調理をしており、出勤と同時に入居者から「今日も楽しみにしとるよ！」と声を掛けられると力が湧いてくるとやりがいを語っている。野菜は代表者が管理する菜園で収穫したものが多く、野菜が高騰する時期も常に食卓にふんだんに並んでいる。ソーメン流しやバーベキューなども季節のイベントとして取り入れている。“寝食を共にする”代表者の思いもあり、職員も同じものを摂り、業務の活力になっている。食事は13時まで食器を下げる音など無くゆっくり摂ることとしている。	食後に「今日の団子汁は美味しかった。茶わんまるごと食べたよ！」と和やかなやり取りからホームの日常が窺えた。キッチンバサミの使用方法については注意事項を共有しており、引き続き周知の機会をもたれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては特に暑い夏には、意識した提供を日中 夜間を通して行い、体調の安定を図った 又食事に関しては、個々の状態に合わせて、量や形態、調理法を考慮して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を職員と協働にて行っている 特に夕食後の口腔ケアは磨き残しが無い様に全員職員が仕上げを行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うことで、本人が失敗して自尊心をなくさない配慮を行っている	基本的に昼夜ともにトイレでの排泄を基本に支援しており、全員がリハビリパンツで過ごされている。夜間は安眠を重視し、パットの併用や紙おむつを使用される方もおられる。トイレは3か所設けられ、それぞれが居室の近くなど使い慣れた場所があり清潔に管理されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をもとに、薬だけに頼らない工夫を行っている 便秘が続く場合は看護師による排便コントロールも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回、日中の時間に対応しゆず湯など季節湯を楽しめるように工夫を行い、又職員との会話を楽しむ時間としてもとらえている 入浴拒否の場合は時間や職員の変更をおこない柔軟に対応している	入浴は入居者が心を開く1対1の貴重な時間であることを全職員が理解し、ゆっくり関わりながら支援している。週3回を基本とし、15時(おやつの後)過ぎから支援している。入居者によってはタイミングを見て午前中も対応している。夏場は控えていた散歩も気候を見て朝夕1対1の散歩も再開しており、必要時にはシャワー浴も取り入れ気持ちよく過ごせるようにしている。脱衣所や浴室は掃除や整頓を心掛け、季節や個々に応じ室温や湯温を調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は戸外の空気と太陽を浴びて、体内のリズムを整えて、室内でも心地よい疲れを感じれる程度の家事活動を個々の体調に合わせて取り入れて、夜間の安眠につなげるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による薬の管理を徹底しており、医師 訪問看護師との情報交換を行い薬剤による症状の変化、副作用には留意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに、それぞれの趣味や、やりがい、楽しみを会話の中から聞き取りし、好きなことができる環境づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族同意のもと、職員と一緒に、衣類や趣味の道具の買い物を楽しまれている また季節毎のドライブなども行っている	季節毎に桜・紫陽花・コスモス等を見学し、野菜や果実(びわ・ザクロ・渋柿・みかん他)の収穫を楽しむ機会を継続している。また、地域や職員からの情報を得ながら、外出を支援し、「思い立ったら即実行！」を重要視し、天候や希望に応じ取り組んでいる。敷地内には季節の花々が手入れされ、グランドゴルフの練習、散歩や夏場のソーメン流し、子ども神輿の受入れ、応援場所になる等環境を生かしながら外出を支援している。	訪問時に敷地内や近隣を散歩される家族もあり、ホームも自宅への帰省などを支援しており、入居者の気持ちを察し正月三が日に可能ならば自宅で家族や親類とゆっくり過ごしてもらえるような働き掛けのメッセージを便りに同封予定である。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を継続して支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持は、管理上むづかしいため行っていないが、身の回りの必要なものは家族が準備又は家族同意のもと購入を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴のある方はFAXを利用したり、母の日や誕生日には家族より電話があるため、自室でゆっくりと携帯電話を使って会話を楽しんでもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様方の手作りの季節を味わうことのできる作品を展示したりと和む空間を作っている。 掃除や換気は毎日行い室温調整も快適に過ごせるように配慮している	認知症の状態を見極めながら入居者の出来る事に取り組んでもらっており、リビング兼食堂には壁面を利用し書道や貼り絵などの作品が掲示されている。また、大型の日めくりカレンダーで日にちを確認したり関係業者から届くカレンダーは鮮やかで楽しみにされている。日中の殆どを過ごすホールで職員の特技を活かした歌やピアノの伴奏によるレクレーションや、職員が持ち寄った季節の花が要所に飾られるなど、心も身体も気持ちよく楽しく過ごしてもらえる環境を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の固定は行わず、その日の心身状態等を考慮して座っていただいている 又一人の時間が必要な方は自室でしばらく横になったりとそれぞれの場所でそれぞれに過ごせるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参いただき、我が家にいた時と同じような風景を作っていたいただき、その後心身状況の変化等に合わせて使いやすいように居室を作っている	リビング食堂を囲むように配置された居室である。居室へ持ち込む品は新たに購入せず自身が使用していた物、布団類などは馴染みのものが特に良いことを伝えている。それぞれの部屋には家具や家族の写真、趣味の作品等が持ち込まれている。共用空間同様、職員は掃除や換気を徹底し、中には入居者も部屋の掃除をされている。居室の移動は基本的にされていないが、身体状況や看取り支援時など、必要があれば家族の同意のもと行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室からトイレへ又ホールへ等、手摺を使い安全な同線の確保ができるように、居室や席の配慮を行い、スムーズな動作移動ができるように見守り重視を行い安全安心につなげている		